

第6回越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 議事要旨

■日時：令和7年7月18日（金） 15:00～17:00

■場所：北陸地方整備局 合同会議室1・2（Web会議併用）

■配布資料：

- ・次第
- ・出席者名簿
- ・資料1－1～2 自然環境活用部会規約（案）・委員名簿（案）
- ・資料2 第5回協議会概要報告
- ・資料3 生息環境検討部会の取組
- ・資料4 自然環境活用部会の取組
- ・資料5－1 越後平野における生態系ネットワーク形成行動計画（2035）（案）
- ・資料5－2 行動計画（案）概要版
- ・資料6 越後平野における生態系ネットワーク形成全体構想改定（案）
- ・参考資料1 越後平野における生態系ネットワーク「えちごエコネット」とは
- ・参考資料2 協議会規約・委員名簿

■出席者（敬称略）：

第6回越後平野における生態系ネットワーク 推進協議会 出席者名簿

区分	機関名	所属	役職	氏名	参加方法	備考	
					出欠		
学識者	新潟大学	農学部	教授		対面	会長	
	徳島大学	大学院社会産業理工学研究部	准教授		対面	委員	
	新潟国際情報大学	経営情報学部	教授		対面	委員	
	長岡技術科学大学	環境社会基盤工学専攻	教授		WEB	委員	
団体等	瓢湖の白鳥を守る会		事務局長		WEB	委員	
	新潟県水鳥湖沼ネットワーク		事務局長		対面	委員	
	一般社団法人長岡市緑地協会		理事長		欠席	委員	
	新潟県野鳥愛護会		会長		対面	委員	
	北陸建設振興会議 NPO研究委員会		委員長		対面	委員	
			企画部会幹事		対面	随行	
			事務局次長		対面	随行	
行政	新潟県	環境局 (環境対策課)	局長	茂野 由美子	欠席	委員	
			自然保護係長	五十嵐 康紀	WEB	代理	
		農林水産部 (農産園芸課)	部長	神部 淳	欠席	委員	
			参事	長谷川 和徳	WEB	代理	
			主任	山本 慎斗	WEB	随行	
		農地部 (農地計画課)	部長	野中 振拳	欠席	委員	
			副参事	東條 貴文	WEB	代理	
			部長	清田 仁	欠席	委員	
		土木部 (河川整備課)	部参事	原田 亮	WEB	代理	
			副参事	丸山 孝行	WEB	随行	
			技師	土田 真生	WEB	随行	
	新潟市	環境部 (環境政策課)	部長	小泉 英康	欠席	委員	
			課長補佐	佐藤 貴光	WEB	代理	
		農林水産部 (農村整備・水産振興課)	部長	花田 潤也	欠席	委員	
			課長	小林 友衛	WEB	代理	
	長岡市	土木部	部長	丸山 信文	WEB	委員	
		環境部	部長	佐山 靖和	欠席	委員	
		環境衛生課	課長	坂上 新一	WEB	委員	
	新潟市	阿賀野市	民生部	部長	吉川 麻子	欠席	委員
		農林水産省 北陸農政局	課長	藤元 栄一	WEB	委員	
			環境保全官	川中 清誠	WEB	随行	
			環境保全係長	満保 孝一	WEB	随行	
環境省	農村振興部 農村環境課	関東地方環境事務所 野生生物課	課長	刈部 博文	WEB	委員	
			課長補佐	畠上 祥成	WEB	随行	
			課長補佐	長谷川 希和	WEB	随行	
			生息地保護 連携専門官	新井 孝尚	WEB	随行	
		関東地方環境事務所 佐渡自然保護官事務所	首席自然保護官	北橋 隆史	WEB	随行	
	国土交通省 北陸地方整備局	河川部	部長	木村 黒	対面	委員	
		信濃川河川事務所	事務所長	土屋 修一	WEB	委員	
			副所長	北沢 茂樹	WEB	随行	
			流域治水課長	若林 ゆきこ	WEB	随行	
		信濃川下流河川事務所	事務所長	栗林 孝典	WEB	委員	
		阿賀野川河川事務所	事務所長	渡邊 重紀	WEB	委員	
オブザーバー	佐渡市	農業政策課	課長	中村 長生	欠席		

■議事

(1) 規約の改定（案）

- ・意見なし

(2) 前回（第5回協議会）の報告

- ・意見なし

(3) 生息環境検討部会の取組

会長

- ・「河川と農地の取組で連続性を担保する」点が非常に重要であり、勉強会等を通じて積極的に取組を進めていただければと思う。国土交通省の生態系ネットワーク形成事業で、河川と農地を結び付け、具体的なモデルケースでコミュニケーションのあり方を考えることが望ましい。

委員 A

- ・管理者や地域が望めば、ベニヤ板などで手作りの魚道などを作るなど、方法はある。
- ・徳島では通年で水があり水位変化が少ない水路は産卵環境になっている事例があることから、再生産に寄与する場所は残しておいても良いのではないか。

委員 B

- ・河川部局と農業部局の連携については、流域治水の観点でグリーンインフラも含めて取組を進めている。河川と農地の境界は、関係者で現地を確認し、改善すべき箇所を検討したい。自然再生事業として、礫河原や湿地の再生に取組んでおり、流域治水協議会でもこの観点を議論に含めていきたい。

事務局

- ・（水路と水田間の落差の連結を構造的に高める二次製品などの導入について）情報を持ち合わせておらず即答はできないが、用水路などは土地改良区が管理している場合もあり、今後相談したいと考えている。

会長

- ・佐潟ではアカミミガメが推定 1 万匹生息していると言われており、被害が深刻化している。コウノトリが上越まで来ていることから、将来的には下越にも拡大することが考えられるため、佐潟にコウノトリの人工巣塔を建設して、コウノトリを誘致してはどうか。佐潟を管轄する新潟市には積極的に検討してもらいたい。

委員 A

- ・徳島では、コウノトリがアカミミガメの小さい個体を丸のみして食べることが確認されている。個体数を減らすほど吃るのは難しいと思うが、アカミミガメが農作物を荒らすようになる前に、希少種に来てもらうことも課題であると考える。

会長

- ・ガン、ハクチョウ、トキの視点から見えてきた重要な地域で有機農業を行えば、生態系ネットワーク形成により貢献できるという提案や情報発信を行っていくことも大切ではないか。
- ・有機農業については越後平野の JA の方々の理解を得るのが難しいと聞き、勉強会やフォーラムが必要かもしれないと考えている。中心となる主体を決めて動く必要がある。

委員 A

- ・農業のあり方だけでは難しく、企業の関わりの視点から広げていくのも良い。

(4) 自然環境活用部会の開催報告

委員 C

- ・瓢湖に商品としてヒシ羊羹がある。ヒシを核にした食や環境学習、保全などの活動を展開していきたい。

委員 D

- ・商品化する際は、ヒシの実の尖った形がパッケージに入っていると良い。美しい場所で採れたというストーリー性を示すことで、健康にも良く、自然に貢献している意識

も生まれて良い。

委員 B

- ・全国的に自生していたものが少なくなってきたこと。希少性があるならば、福岡県や佐賀県、福島県などヒシを活用している地域との交流も面白いかもしい。

事務局

- ・ヒシは殻むきに人件費がかかり単価が高くなるため、一般向け商品にする際には壳り方の工夫が必要である。

会長

- ・購入することで湿地環境の保全につながるという付加価値をつければ、賛同者は一定以上いると思う。
- ・新潟では「ヒシ」は身近な存在であるが、全国的には浸透していない。ヒシを安定供給するために、生態系ネットワーク形成事業で資源増産を図り、ブランド化を進める取組も考えられる。生物多様性や水辺環境の保全にもつながると考えられる。
- ・カニやナマズなど、これまで活かしきれていた资源の魅力を見直すことも重要である。ヒシの加工を起爆剤に、潟の資源を活かした食材開発について、中心となる主体を設定し、役割分担をする体制へ切り替えていくこともよいのではないか。
- ・活用部会の委員として参加いただいている団体とも、参画の意義をあらためて共有して、連携の進め方などを考えてはどうか。

委員 A

- ・民間企業に参加してもらい、企業のCSR活動につなげられるとよいと思う。
- ・生協やコープを巻き込めるとよい。生産物の良さが理解されて消費されることが重要である。消費に企業が関わってお金が動くようになり、自発的な動きが出てくる形が理想的である。

(5) 越後平野における生態系ネットワーク形成行動計画（案）について

委員 C

- ・ハクチョウ、ヒシクイは福島潟や瓢湖の利用が困難になると佐潟を利用することが分かっている。この佐潟を補完するねぐらが上堰潟になる。上堰潟周りの田んぼは新潟県でも積雪が一番少ない場所であり、非常時の餌場になっている。「優先的に取組む地区」の図では、上堰潟あたりが取組候補地区に含まれていないように見えるので、確認してほしい。

会長

- ・進行管理で PDCA サイクルが出ているが、自己評価だと甘くなってしまう可能性がある。外部審査員のような方に関わっていただき、前向きに達成度や改善点、力を入れるべき点を言っていただけたとよいかもしれない。
- ・部会の回数について、内容を承認するだけであれば 1 回でも良いかもしれないが、取組を進めるためには部会の下で勉強会やフォーラムなどを開催し、地域住民やステークホルダーを集めて意見交換の場を設ける必要があるのではないか。
- ・現在実施されている様々な取組や事業を、どのように生態系と結び付けていくのか、連関図のようなものを作り上げると良い。

委員 B

- ・流域治水協議会などの協議会にも落とし込み、それぞれの事業計画に生態系ネットワークの取組の一部をどう反映して実効性を持たせていくかが重要である。

会長

- ・(特に異議がないことから) 越後平野における生態系ネットワーク形成行動計画は、承認されたものとする。

(6) 全体構想の改定について

- ・改定に関わる意見なし

委員 D

- ・取組を進める際に、えちごエコネットのロゴのようなものや SDGs ロゴなどを使っていくことで、ブランドや価値が形成されると考えられる。

会長

- ・行動計画に示した優先的に取組む地区の中でどのような環境を OECM 登録していくべきかという議論をした上で、生物多様性地域戦略など各主体で策定している計画等との関連も考慮しながら、環境省や新潟県、各地方自治体と連携し、この 5 年間で検討を進めても良いのではないか。

委員 A

- ・市町村の環境部局の担当者を対象とした、環境省による自然共生サイトの説明会があれば良い。

委員 E

- ・地元に OECM たりうる地域があり、認定手続きや自然共生サイトについての制度的な勉強会の要望があれば、協力は可能である。

■閉会

事務局

- ・本協議会で、行動計画が策定された。行動計画の内容は状況に応じて適宜更新していくことを想定しており、修正の必要が生じた場合には随時連絡を受け付ける。また、年次確認の際にも修正等の有無について確認する予定である。

以上